



初中タイムス

令和2年度 第9号
初島中学校学校通信
R2、10、23
発行者 出口雄三朗

「初島愛」を育てる(2)・・・

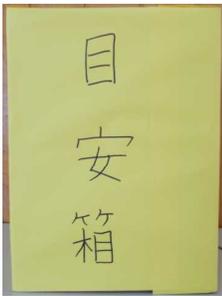
前々号で「初島中学校では、初島のことをもっと知り、生徒達の地元初島への愛着を深めさせようと『ふるさと学習』に取り組んでいます。」とお伝えしました。「東燃とともに生きる町」「石碑から見えてくるふるさとのこと」「地域を支える農業と段々畑(石積み)」「地場産業(手袋工業)」の4つのテーマで学習を進めています。初島町を愛する「チーム六桜花」の皆さんに、それぞれのテーマについてお話を聞いて学び、その後地域に出かけて実際に見て感じ、考えたり発見したりして、今はそれをまとめる作業に入っています。



初島中学校では、生徒達が学校生活を送る主体として自分たちの生活を見つめ、よりよく改善していくために「目安箱」を設置しています。

先日、目安箱に「昨年まで実施していた地域での奉仕作業を今年も行ったらいいのではないか」という投稿があり、生徒会でこれについて検討していました。検討の結果、是非行おうということになり、生徒会役員さんが校長先生に「地域での奉仕作業を今年も実施したいです。具体的には北原会館周辺、ぞうさん公園周辺の清掃活動を考えています。是非許可をいただきたいのですが・・・」と相談に来ました。

初島に育つ子どもとして、ふるさと初島を大切にしたいという思いを持った初島中学校の子どもたち・・・本当に素晴らしいと感じます。子どもたちの心に着実に「初島愛」が育っていると感じます。



「初島中の伝統」を伝える・・・

体育大会などの学校行事だけでなく公民館行事や天神祭など多くの場面で披露する「初中ソーラン」は初島中学校の伝統文化です。毎年1年生が入学してくると2・3年生と一緒に縦割り班を作り、2・3年生が1年生に熱心に教え、機会あるごとに練習を積み重ねてその年の「初中ソーラン」を完成させます。

中学校統合に際して、そうした初中独自の伝統文化をどう守っていくか頭を悩ませた結果、初島小学校の児童に引き継いでもらおうということになり、中学生と小学生と一緒に「初島ソーラン」をつくりあげる「合同ソーラン」に取り組んでいます。小学生と中学生・・・とても楽しそうに「ソーラン」を作っている姿はとても微笑ましく、一緒に伝統文化を守っていこうとする初島の子どもたちは誇らしく思えます。



修学旅行に行ってきました！

今年の修学旅行は新型コロナの影響で例年春に実施しているのを秋に移行し、行き先も関東方面から北九州方面に変更して実施しました。長崎県を中心に「平和」について学び、「貿易の盛んだった長崎の文化」に触れる旅になりました。時期や行き先が変更しても、子どもたちは仲間と一緒に活動できることがとても嬉しそうでした。



キッズサポートスクール

1年生は警察の方々に来校いただき、身近にある犯罪やインターネットに潜む犯罪、SNS上でのトラブルから身を守る方法などについて教えていただきました。

- ・言葉が人を傷つけたりすることがあるので、しっかりと「心のブレーキ」をかけたいと思いました。
 - ・「ライン」で使う言葉や言い方にも気をつけようと思いました。(生徒感想より)
- 子どもたちは勉強したことについてお家の方とも話をしたようでした。
- ・子どもたちにとって、普段の行動や言葉が犯罪やいじめにつながったりするということの勉強になっていいと思いました。
 - ・子どもと「心のブレーキ」について話をしました。言葉を選ぶことの大切さについて話をしました。(保護者感想より)



(県)新人体育大会陸上競技の部・・・頑張りました！

陸上部は一足先に有田地方の新人大会が開かれ、結果、高島心晴さん、川原理央さん、黒崎陸斗くん、南村歩未さんの4人が好成績を残し、県大会に参加することになりました。高島さんは走り幅跳び、川原さんは100m走、南村さんは走り幅跳び、黒崎君は400m走でそれぞれ精一杯自己新記録に挑戦しました。